

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	521 諏訪新居線道路改良事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	02	道路橋りょう費
基本 施策	50 市内道路網を機能的に強化する	目	03	道路新設改良費
		細目	344	地域活力基盤創造交付金事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	57	諏訪新居線道路改良事業
担当部課	コード	190500		担当者 氏名
	名称	産業建設部建設1課		
		連絡先	43 - 2323 (内線) 236	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	市北部地区から市街地中心部へアクセスする人	※対象件数
成果(どうする)	通行がスムーズになり、地域住民の生活道路として利用しやすくなる。	
根拠法令・要綱等	道路構造令、アスファルト舗装要綱	
開始年度	平成 21 年度	関連事業
終了年度	平成 24 年度	
H21 事業 内容	昭和40年代に旧上野市が道路改良を実施し、その続きを三重県が広域農道整備事業で整備を行った路線である。この市道は、県道、広域農道、ふるさと農道からなる広域農道「伊賀コリドール」の一部の区間であるものの、縦断勾配が急であり、また視距が悪く危険であるため本事業で道路改良を実施し、安全安心に通行できるよう改善を図る。 事業概要 延長370m 道路幅員W=7.0m	
社会情勢の 変化等	財政事情が厳しい中、道路利用者からは、安全・安心な道路整備が期待されている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)		運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 建設用地	伊賀市諏訪・西高倉地内	1 運営主体	
2 建設面積 (延床面積)	計画延長L=370m	委託先	
3 規模・構造	道路構造令第3種4級(W=7.0m V=40km/h)	2 配置人員	人
4 総事業費	100,000 千円	3 年間運営費	千円
		4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
道路改良延長	目標	m	目標		70	100
	実績		実績			
道路用地取得面積	目標	m2	目標		7,400	
	実績		実績			

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
道路整備による作業進捗		事業効果を高めるため短期間での事業完了に努める(執行済事業費/総事業費)	%	目標	目標	12	64
				実績	実績	14	
				目標	目標		
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	0	13,500	50,000	18,000				
A の 財 源 内 訳	国庫支出金		7,425	27,500	9,900			
	県支出金							
	地方債		5,700	21,300	7,600			
	その他	0	0	0	0			
一般財源	0	375	1,200	500				
事業投入人件費 (B)	人	0	1.5	人	10,800	1.5	人	
フルコスト(A)+(B)	0	24,300	60,800	28,800				

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	○
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。	○
サービス水準や対象を見直す余地がある。		市北部地区から市街地中心部へのアクセス道路として重要な路線であり、広域ネットワークの構築、さらに地域社会の発展・活性化につながる。
達成度	当初設定した計画を 60%以上80%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 有	
【予算の繰越がある場合、繰越の種別】		繰越明許費
公図混乱区域の早期解決にあたる。		
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	○
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
【事業名】 道整備交付金事業 ゆめが丘摺見線		事業効果を高めるため、短期間での事業完了に努める。
受益者負担を求めることができる事業である。		
全体コストにおける負担構成は適正である。		
コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。		

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	工事施行計画を十分検討し、工事期間の短縮化を図るように努める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる
	【詳細】 H21年度は測量設計と用地測量を実施したが、一部の区域で公図混乱箇所があったため、地図訂正を行う必要が生じ、予算の繰越を行うこととなった。

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	北山 太加視
【方向性】	現状維持
【理由】	本区間は特に道路縦断勾配が急勾配で且つ、視距の確保ができていないため、「現在の道路構造令に即した道路改良」を行うことは、市民の安全と交通の円滑化を図るうえで必要であり、計画通り進めることが妥当であると考え。
現時点における課題、その他	公図混乱箇所の早期の解決を急ぐ。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成24年度完了を目指して、取り組んでいく。